

遊休農地を利用した子どもたちの農業体験

農委会名：宇城市農業委員会

1 地域の概要

宇城市は、平成17年1月15日、旧宇土郡三角町、不知火町、下益城郡松橋町、小川町、豊野町の5町が合併して誕生した。

九州の経済大動脈である国道3号線と西は天草、東は宮崎県への結末点という地理的状況に恵まれ、美しい田園風景と不知火海の文化に彩られた自然景観、そして都市的機能を併せ持つバランスの取れた水と緑と心豊かな地域である。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 13人（うち、認定8人、女性1人）
- (2) 推進委員数 20人（うち、認定10人）
- (3) 事務局体制 5人（専任）

3 掲げた目標

遊休地の再生 3,000㎡

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

平成19年度より、現地検討会単位で国県市道沿線の遊休農地を借り受け、景観作物（ヒマワリ、コスモス等）を植え付け、遊休農地解消を呼びかける看板を設置してきた。令和元年度は豊野町で、地元の農業委員および農地利用最適化推進委員と学校が連携し、小学校1・2年生と中学生も協力して、イモ植えやイモ掘りなど農業体験に取り組んだ。



（地元小中学生による収穫作業）

5 取り組みの成果

豊野小中学校では今年で10年目の取り組みとなり、子ども達も楽しみにしている。地域での農家数が減少し、なかなか農業経験をする機会が少ない子ども達にとって、このような農業体験は子ども達や地域にとっても良い取り組みとなっている。

また、低学年の児童だけでなく、中学生も一緒になって農作業を行うことは、小中学生の交流の場としても良い機会となっているようだ。秋に収穫されたサツマイモは学校給食

にも利用され、子ども達が食育について考えるひとつのきっかけになればと思う。
実際の取り組み面積は豊野町において1,047㎡となっている。

6 課題と今後の方針等

豊野町のみでなく、宇城市全体での取り組みおよび、取り組み面積の拡大を図っていき
たい。